

今からおよそ2600年前のインド。

ある日お釈迦さまは、弟子たちに質問をされました。

「いまだ正しい教えを聞いたことがない人も、すでに正しい教えを聞き、それを学ぶ人も、喜びを感じたり、苦しさを感じたりする。

では、正しい教えを聞いたことがない人と、正しい教えを聞き、学ぶ人とは、どこが違うのだろうか。」

この質問に弟子たちは答えることができませんでした。お釈迦さまは、二つの矢のたとえをもってその違いをお話になりました。

「いまだ正しい教えを聞いたことがない人は、
第一の矢を身体^{からだ}で受け、さらに第二の矢を心で受けるようなものである。

第一の矢とは、身体で感じるということである。

第二の矢とは、執^{しゅうちやく}着する心である。

正しい教えを聞きそれを学ぶ事がない為に、喜^{よろこ}びを感じればそれに執着する心が生まれ、また、苦しさを感じれば怒りの心が生まれ、結果、煩^{ぼんのう}悩^{とら}に囚われてしまう。

だが、正しい教えを聞きそれを学ぶ人は、第一の矢を受けるが、第二の矢を受けることがないのである。喜びを感じても、それに執着する心が生まれることがない。

また、苦しさを感じても、怒りの心が生まれないので、結果、煩悩に囚われることがないのである。」

お釈迦さまも私たちと全く同じ感覚を持っていたということが分かります。

正しい教えを学び、悟りをひらくということは、超人になってしまうような、また、感覚をも無くしてしまうように思いがちですが、実際はお釈迦さまも私たちと同じ人間なのです。美しいものを見れば美しいと感じ、愛^{いと}しいものを見れば愛しいと感じ、苦しい時には苦しいと感じる・・・

私たちとお釈迦さまの大きな違いは、第二の矢を受けることがないということです。

私たちは、世の中からの刺激^{しげき}に対しすぐに反応し、心を動かされ、執着する心・煩

悩が起り心がかき乱されてしまいます。

しかし、お釈迦さまは周りからの刺激を受けても、煩惱を起こすことなく心の平安を保つことができるのです。

お釈迦さまの悟りとは、心の平安を保ち続ける方法といっても過言ではないでしょう。

お釈迦さまのように第二の矢を受けることなく、いつも心の平安を保ち続けることは、私たちの願いです。これからもお釈迦さまの正しい教えを共に学んでいきませんか。